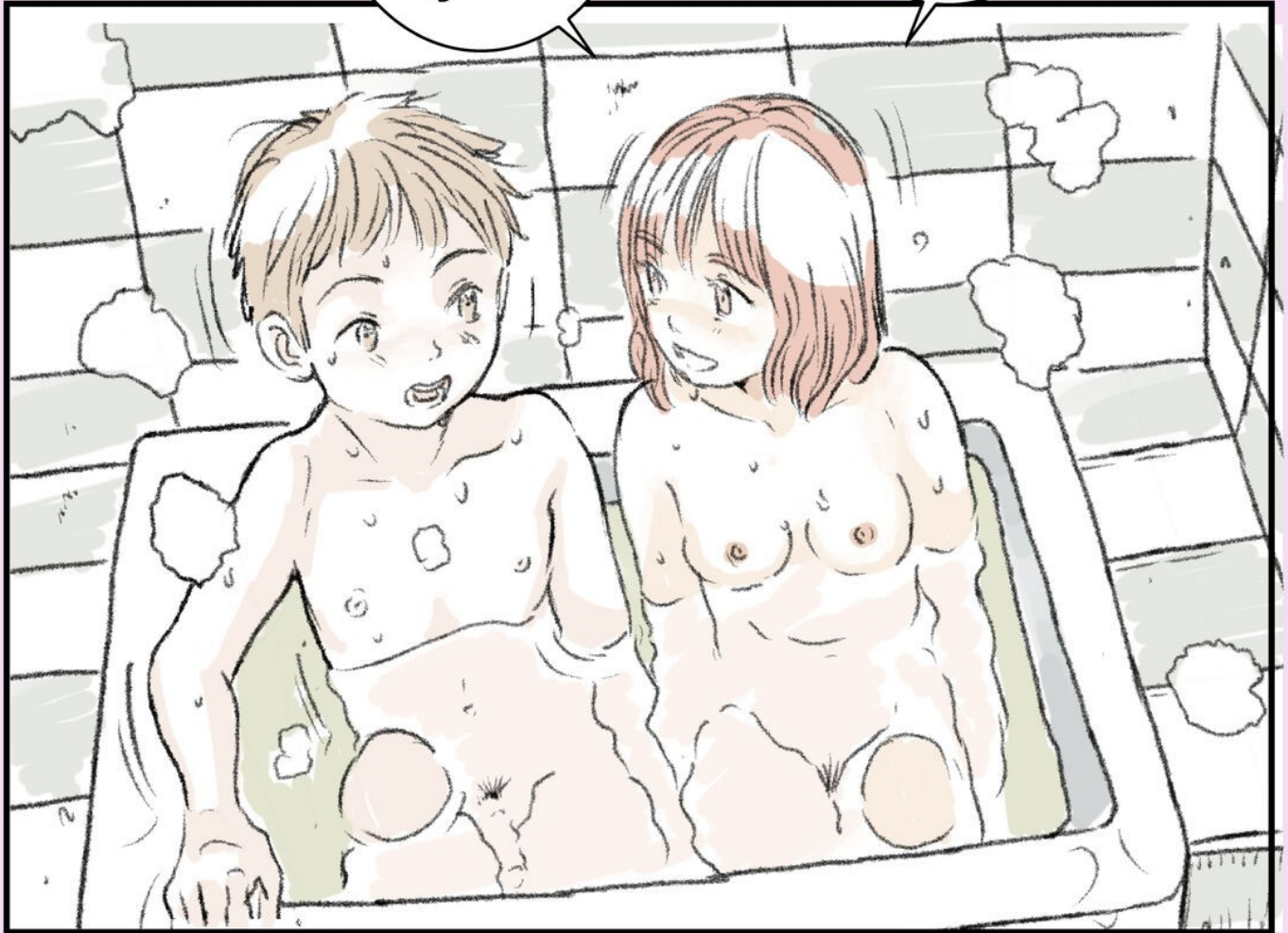


ねえ
もっと
そっちに
行ってよ

わたし
昔とちがって
あちこち
大きくなってるんだから



夕方になって
ふたりで
一緒にお風呂に
入ったんだけど
彼女の
やわらかい身体が
ぼくにふれるたびに
ぼくのはそこは
大きく反応してしまっ

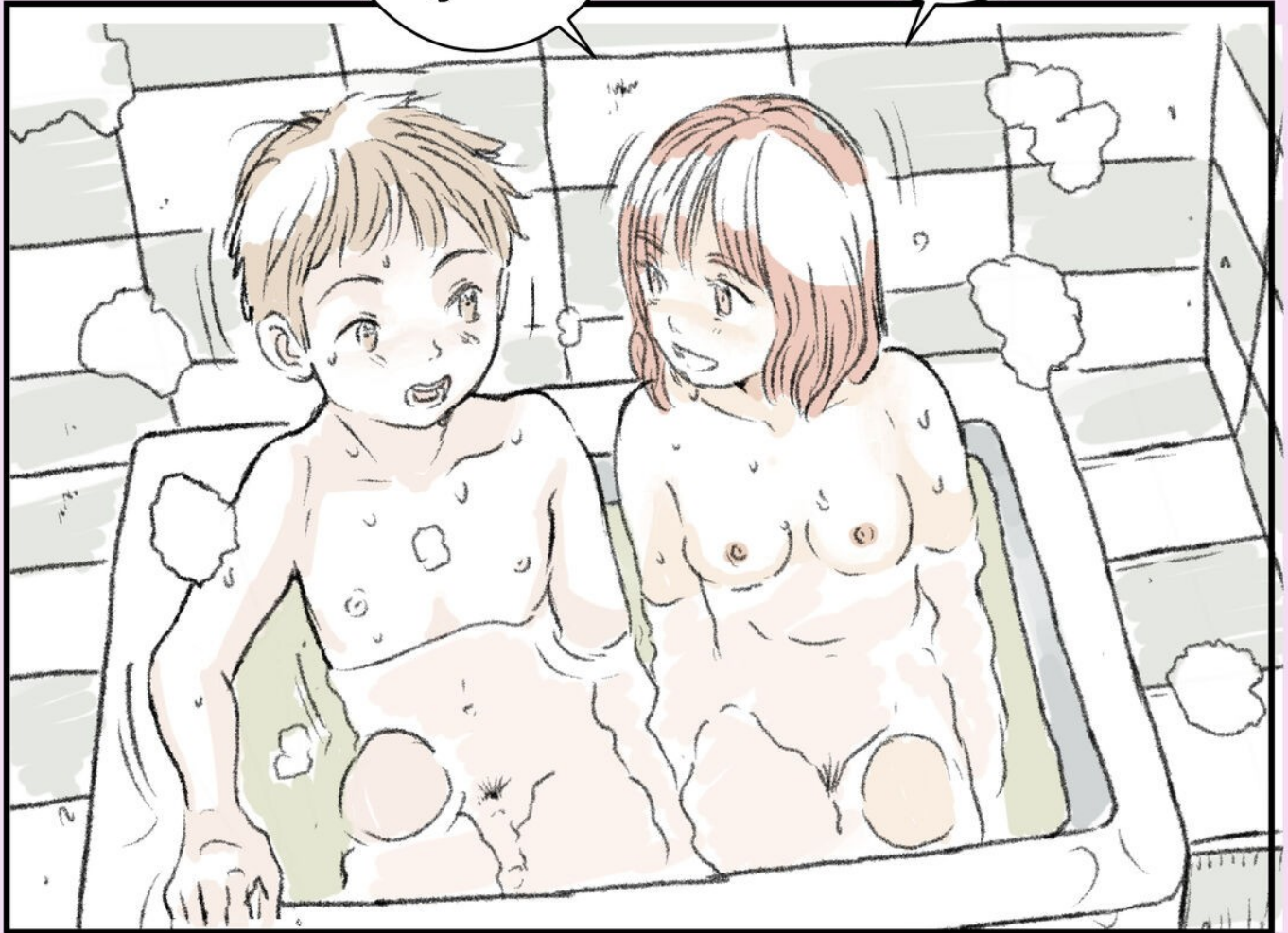
数年ぶりに
昔住んでた田舎に
帰ってきたぼくは
そこで3歳下の
従妹に再会した
夏休み

ねえ
お兄ちゃん
昔みたいに
一緒に
お風呂は
いいよね



ねえ
もつと
そつちに
行ってよ

わたし
昔とちがって
あちこち
大きくなってるんだから

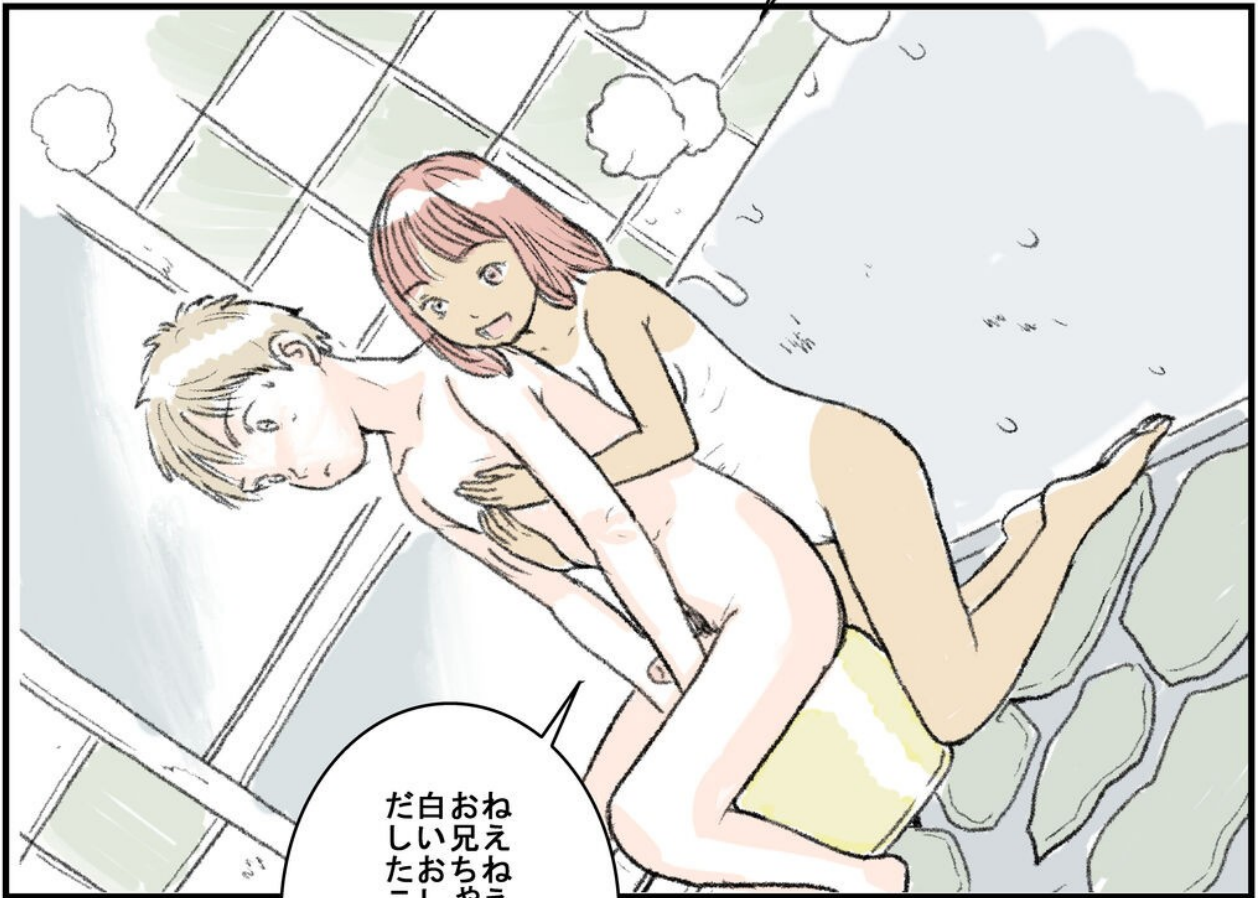


夕方になって
ふたりで
一緒にお風呂に
入ったんだけど
彼女の
やわらかい身体が
ぼくにふれるたびに
ぼくのはそこは
大きく反応してしまつて

昔
一緒に
お風呂に
入っていたときは
とくに
何も感じなかったのに



あーお兄ちゃんの
綺麗なすもも色だー
ぜんぜん
いいのと違うー



ねえねえ
お兄ちゃんて
白のおしっこ
だしたことがある？

僕は
どう答えるか
困ってしまった
言葉につまんで
しまった

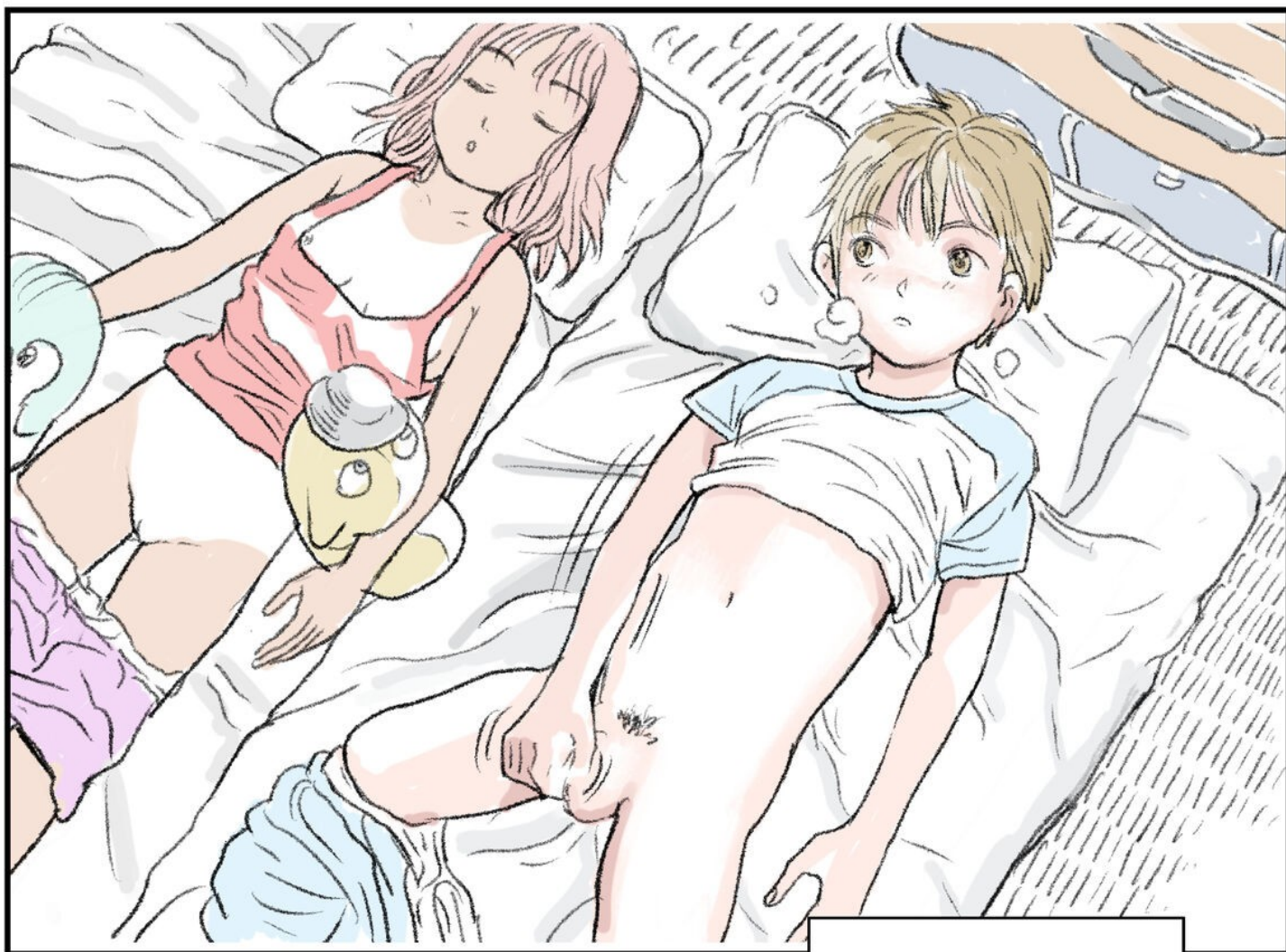
すると
彼女は
僕の顔の前で
大きく足をあげて
彼女のかわいい
あそこをみせびらかした
クリトリスが
綺麗なピンク色に染まっていた



わたし
白おしつこ
ださせるの
うまいんだよ

その夜ぼくは
彼女と一緒に寝た

彼女が
眠ったのを
確認してから
お互いの
パンツをおろして
あそこを
いじりはじめた



その夜
ぼくの手の中に
信じられない量の
精子があれだした
朝までその
匂いはきえなかった

完



